

学校教員による性的逸脱行動の分析

An Analysis of Deviant Sexual Behavior in School Teachers

| | |
|------------------------|-----------------|
| 桐生 正幸 | Masayuki KIRIU |
| 大高 実奈 ^{*1} | Mina OTAKA |
| 田 楊 ^{**1} | Nieves Young |
| 高橋 綾子 ^{***2} | Ayako TAKAHASHI |
| 山口 雄人 ^{****1} | Yuto YAMAGUCHI |

はじめに

近年、未成年者が学ぶ学校の教員による性的犯罪や性的逸脱行動に関する報道が多い^{注1}。しかし、その実態と特徴、具体的な対応策に関する犯罪心理学的な研究は決して多くない。スクール・セクシャル・ハラスメントに関する研究は比較的多いものの、それらは教育臨床や法学の分析（柳本、2018）による学校内での性的逸脱行動への言及が中心となっている。池間（2017）は、児童ポルノ事犯の犯罪心理学的分析を行い、加害者に「学校関係者」が多いことを明らかにしていることから、学校内ばかりではなく、教員の学校外での性的逸脱行動の分析も不可欠であることが示唆される。

教員と生徒との関係は基本的に権力構造であり、他者の目が届かない密室的な状況を多く有している関係でもある。また教員は、日常的に生徒との場所、時間の共有空間を多く持つため、未成年者を性的な対象と認知してしまうリスクも有するものと考えられる。そのような状況において、教員個人への注意喚起、モラル教育だけでは、未成年者への性的犯罪や性的逸脱行動が防止されるとは考えにくい。組織的に実証性の高い方法で、他の要因も含めた対策を検討することが重要であろう。そのためには、まず実態の把握と、データ分析から得られる特徴、タイプ分けなどを実施して、具体的で実際の場面を想定し検証を繰り返すことが求められる。

*大高実奈 東洋大学大学院社会学研究科・福岡県警察本部科学捜査研究所

**田 楊 東洋大学大学院社会学研究科

***高橋綾子 東洋大学大学院社会学研究科

****山口雄人 東洋大学大学院社会学研究科・香川県警察本部科学捜査研究所

1 データ分析のための変数を検討した。

2 データ解析を行った。

そこで我々は、以上のことを踏まえた効果的な防止対策を提案するために、教育機関に所属する教職員の性的犯罪や性的逸脱行動を犯罪心理学の視点から分析している。まず本報告では、この研究を開始するうえで、限られた資料を用いた統計的分析結果を示し、今後の研究への足掛かりとするところである。具体的には、新聞記事などから収集した資料を用いて、任意の変数による多重対応分析を行い探索的に考察する。

方 法

1 資料

1992年から2019年まで間に、小学校、中学校、高等学校、専門学校など未成年者が就学する学校にて教鞭をとる教員が、性的な犯罪や性的な逸脱行為を行い、新聞などマスメディアにて報道された事例を収集した。

事例収集の方法は、東洋大学のオンラインデータベースにある「聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞オンライン記事データベース）」、「産経新聞データベース」、「日経テレコン（日経新聞のデータベース）」、「毎索（毎日新聞のデータベース）」を中心に、「小学校」、「中学校」、「高等学校」、「教諭」、「教員」、「セクシャルハラスメント」、「わいせつ」、「痴漢」、「買春」などのキーワードを用いて検索し、本研究の分析資料として使用可能な事例を集めた。なお、事例の一部は、著者である桐生が東洋大学社会学部社会心理学科にて開講している「捜査心理学」（受講者30名）の演習にて収集した。

2 分析

テキストにて収集した事例は、発生年月、発生した都道府県、出典元、罪名、具体的行為、犯行場所の形態、教育場面か否か、インターネット使用の有無、加害者の性別、加害者の年齢、加害者の年代、加害者の勤務校、勤務校の都道府県名、加害者の職種、被害者の性別、被害者の年齢、被害者の年代、被害者の通学校、面識の有無、余罪の有無などが記述されているものである。

2019年12月10日現在、収集されたデータは116事例である。今回の分析で使用する変数は、「加害者の年代」、「加害者の勤務校」、「加害者の職種」、「インターネット使用の有無」、「犯行場所の形態」、「具体的行為」、「教育場面の有無（教育場面か否か）」、「面識の有無」、「被害者の性別」、「被害者の年代」、「被害者の通学校」とし、それらの要件を満たす事例である。分析のための統計ソフトである「JMP®Pro 14」（SAS Institute Japan 株式会社）である。

3 結果と考察

記載事項が充分であり分析が可能なデータは107事例であった。

まず、主な単純集計の結果である。加害者の年代は図1のとおり、20歳代、30歳代、40歳代がそれ

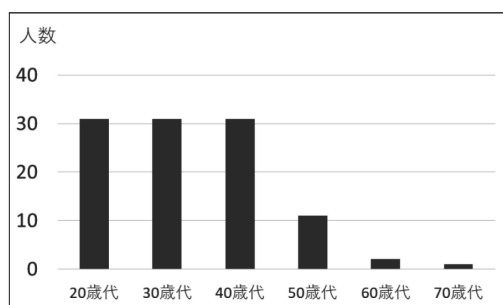


図1 加害者の年代

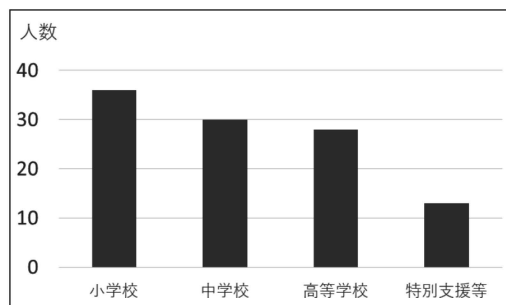


図2 加害者の勤務校

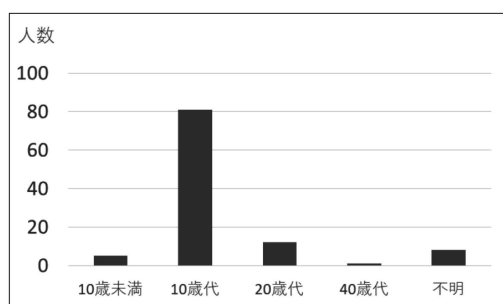


図3 被害者の年代

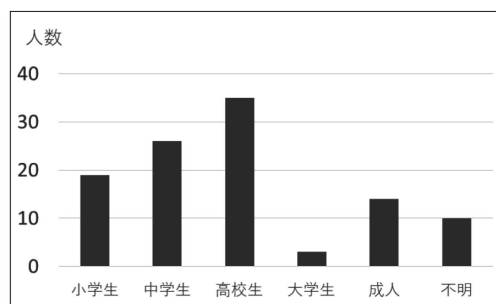


図4 被害者の通学校

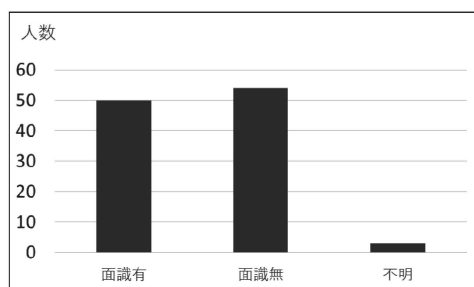


図5 加害者と被害者と面識の有無

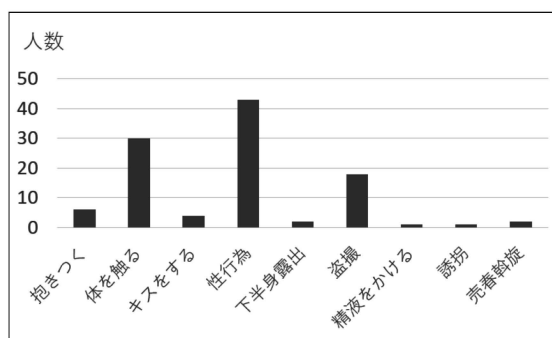


図6 具体的な行為

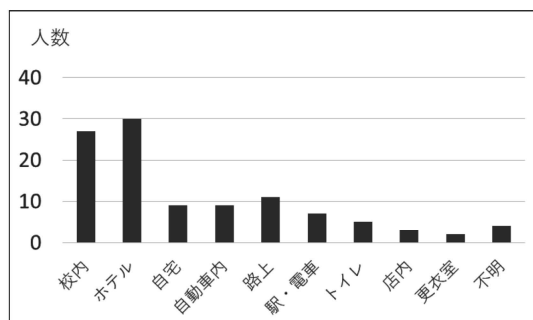


図7 行為の場所

それぞれ31名であった。また、加害者の勤務校は図2のとおり、小学校、中学校、高等学校がほぼ同数であった。次に、被害者の通学校であるが10歳代が最も多かった（図3）。また、被害者の通学校は、高等学校が多かった（図4）。加害者と被害者との面識については、有り無しがほぼ同数であった（図5）。

次に、各変数を用いた多重対応分析の結果は、図8の通りである。次元1の軸を「教育現場－非教育現場」の軸と解釈し、次元2の軸を「直接的性行為－間接的性行為」の軸と解釈した。これより、教育場面の状況においては小学生に対し、校内などで体を触る、キスをするなどの性的逸脱行動があると考えられた。教育の場を離れた状況においては高校生に対しホテルや自動車内にて直接的な性行為が、また大学生や成人に対しては路上や電車内にて間接的な性行為が、それぞれあるものと考えられた。

78

がみられたものと考えられる。

子どもに対する性犯罪加害者の特徴として、小児性愛障害 (pedophilic disorder) が考えられるが、加害者が精神科疾患をもつ場合は少なく多くは機会的に子どもを利用しているものと考えられる (渡邊、2012)。今回の分析対象となった加害者は、教員であることを考えると、一様に小児性愛障害を疑うよりも、未成年者を成人の代替えとして性的行為の対象としたものと予測して良いのではないだろうか。今後、分析データを増やして、より詳細な分析を行っていきたい。

注1 中日新聞<スクールセクハラを考える> (上)「人生を奪われた」2018年2月25日 朝刊

(<https://www.chunichi.co.jp/article/feature/kyouiku/list/CK2018022502000005.html> 2019.12.9 閲覧)

では、「文部科学省によると、二〇一六年度にわいせつ・セクハラ行為で懲戒免職などの処分を受けた公立小中高校の教員は過去最多の二百二十六人。一九九〇年度と比べ十倍以上、懲戒免職に限ると四十三倍だった。相手は自校の児童・生徒が全体の約48%と半数近い。行為は体に触る、性交、盗撮・のぞき、キスの順に多かった。」とある。

引用文献・参考文献

Greydanus, D.E. (Ed.) (2003). *Caring for your teenager: The American Academy of Pediatrics*.

関口進一郎・白川佳代子 (監) 板東伸泰・田沢晶子 (訳) (2007) 10代の心と身体ガイドブック 誠信書房

平山真理 (2007) わが国における子どもを対象とした性犯罪の現状とその再犯防止対策について 法と政治, 58 (1), 139-164

池間愛梨 (2017) 近年の日本における児童ポルノ事犯の発生状況と防犯対策 東洋大学大学院紀要, 54, 105-119

桐生正幸 (2005) 幼児の犯罪被害と犯罪不安(1)—アンケート・面接・現場調査による基礎調査. 犯罪心理学研究43 (特別号), 108-109

桐生正幸 (2007) 自分で自分の身を守る教育—犯罪心理学の視点から考える (特集 自立心を育てる) 児童心理, 60(8), 815-819

桐生正幸 (2007) 犯罪から、いかにして子どもを守るか?—児童における犯罪被害と防犯教室について 小児歯科臨床, 12(7), 51-57

Marshall, W. L., Fernandez, Y., Marshall, L. & Serren, G. (Ed.) (2006). *Sexual offender treatment: Controversial issues*. John Wiley & Sons, Ltd.

小林万洋・門本泉 (監訳) (2010) 性犯罪者の治療と処遇: その評価と争点 日本評論社

中里見博 (2007) ポルノグラフィと性暴力: 新たな法規制を求めて 明石書房

越智啓太 (2006) 子供に対する性犯罪に関する研究の現状と展開(1): 発生状況と犯人の特性 法政大学文学部紀要, 54, 107-117

Prentky, R. A., Knight, R. A. & Lee, A.F.S. (1997) Child Sexual Molestation: Research Issues. *National Institute of Justice*, 1-18

Russell, D.E.H. (1983) The incidence and prevalence of intrafamilial and extrafamilial sexual abuse of female children. *Child Abuse & Neglect*, 7(2), 133-146

杉田聡 (1999) 男権主義的セクシュアリティ: ポルノ・買売春擁護論批判 青木書房

杉田聡 (2003) レイプの政治学: レイプ神話と「性=人格原則」 明石書店

田口真二・平伸二・池田稔・桐生正幸 (編) (2010) 性犯罪の行動科学: 発生と再犯の抑止に向けた学術的アプローチ 北大路書房

内山絢子 (2000) 「性犯罪者の実態(1)」警察学論集, 51(3), 76-98

柳本祐加子 (2018) スクール・セクシュアル・ハラスメントについて—T市公立学校教諭わいせつ事件裁判から見える対策— CHUKYO LAWYER, 29, 17-24

渡邊和美 (2012) 性犯罪の加害者—加害者の特徴

田口真二・平伸二・池田稔・桐生正幸 (編) 性犯罪の行動科学 北大路書房, pp.137-152

【Abstract】

An Analysis of Deviant Sexual Behavior in School Teachers

Masayuki KIRIU

Mina OTAKA

Nieves Young

Ayako TAKAHASHI

Yuto YAMAGUCHI

This study aims to propose effective preventive measures for increased sexual crimes and deviant sexual behavior in school teachers in recent years.

For this purpose, this paper categorizes and reports different types of deviant sexual behavior using related cases collected from news articles.

Source materials were collected from the database of various newspaper publishing companies by searching keywords such as “elementary school”, “middle school”, “high school”, “teacher”, “teaching staff”, “sexual harassment”, “indecency”, “molestation”, and “prostitution”. Articles published between 1992 and 2019 were targeted for this study. The data gathered for analysis amounted to 107 case examples.

As a result of multiple correspondence analysis, an axis of “educational setting-non educational setting” and an axis of “direct sexual activity-indirect sexual activity” were obtained. Based on the drawn groupings, the following types of deviant sexual behaviors were discovered : 1) touching the body and/or kissing elementary school students on campus, 2) engaging in direct sexual acts with high school students in hotels and cars, and 3) engaging in indirect sexual acts towards university students and/or adults on the street or in trains.

In the future, we would like to examine the characteristics and appearance factors of these types of deviant behaviors.